

## 令和3年度第1回岡崎市市民協働推進委員会会議録

### 1 開催及び閉会に関する事項

令和3年11月27日（土） 14時00分～15時10分

### 2 開催場所

岡崎市図書館交流プラザ・りぶら 会議室 302

### 3 出席委員及び欠席委員の氏名

#### (1) 出席委員（9名）

牛山 久仁彦 委員（明治大学政治経済学部教授）  
長坂 秀志 委員（岡崎市総代会連絡協議会会長）  
太田 俊昭 委員（岡崎市社会福祉協議会会長）  
林 みずほ 委員（岡崎商工会議所地域振興事務局）  
山田 美代子 委員（りぶらサポータークラブ副代表）  
野村 綾乃 委員（FM おかざき市政情報パーソナリティー）  
大久保 貴子 委員（岡崎まち育てセンター・りた事務局長）  
神谷 良夫 委員（公募委員）  
柴田 桂 委員（公募委員）

#### (2) 欠席委員（1名）

関谷 みのぶ 委員（名古屋経済大学人間生活科学部教授）

### 4 説明等のため出席した事務局職員の職氏名

桑山 拓也（市民安全部長）

市民協働推進課：阿部田洋（課長）、鈴木正隆（副課長）、谷中千恵（市民協働係長）、中嶋正行（市民協働係主任主査）、野田亜里子（市民協働係主事）

### 5 傍聴者等

0名

### 6 委員長・職務代理者選出

互選により、牛山委員を委員長に選出。

牛山委員長の指名により、関谷委員を職務代理者に選出。

### 7 委員長挨拶

(内容省略)

## 8 概要説明

- (1) 岡崎市市民協働推進委員会の概要について【資料1】

事務局：資料により説明

- (2) 第3期岡崎市市民協働推進計画について【資料2】

事務局：資料により説明

## 9 議題

- (1) 行政的支援及び施策の研究について【資料3】

- (2) 感染症及び災害時等での活動継続に関する情報収集について

- (3) 第3期市民協働推進計画主要事業の実施状況調査票案について【資料4】

<以下、各委員の意見等>

事務局：議題(1)～(3)を資料によりまとめて説明

委員：資料3に「中核市及び県内市町村にアンケート調査を実施」とあるが、中核市と県内の市町村には、同じアンケート様式で調査をしていくのか。

事務局：調査内容は同じものを想定しているが、県内市町村では自治体規模が異なるので、設問や質問内容などこれから慎重に検討していきたい。

事務局：これからアンケート内容等を検討していくが、調査内容によっては照会先についても変更をするかもしれない。今回の委員会では、あくまで概略的に提示させていただいたことをご了承いただきたい。

委員長：県内全自治体に対してということは、政令市（名古屋市）にも照会するという認識でよいか。また、中核市については全中核市を照会する対象とすることでよいか

事務局：県内については、基本は政令市（名古屋市）も含めた全市町村をアンケート調査する対象とすることで検討している。また、中核市については、基本的には規模が本市と近いため、全ての中核市に照会していきたい。

委員長：行政が実施する照会については、回答がどのくらい返ってくる

のか。

事務局：本市も含め、他市の照会については積極的に回答しており、結果の集計を見ても多くの自治体が照会に対しては回答しているような印象を受ける。

委員長：アンケート調査内容等については引き続き検討していく。

委員：コロナ禍においては、活動団体に対してもテレワークやリモートワークが推奨されているが、今回のアンケート結果が今後の団体活動に反映できたらいいと思うので、特に問3については、興味がある内容。他市の状況がよくわかるよう、アンケート内容をしっかり検討して欲しい。

事務局：各自治体が回答しやすいような設問を検討していきたい。

委員：総代会では、12月に地域総合防災訓練が控えている。コロナ禍での初めての取り組みだが、避難所の設営など具体的な取り組み内容については未だ検討中。このような状況の中、本市においては現状幸い災害などは起こっていないが、実際に緊急事態が起こってからでは遅いので、地縁団体としても、他市がどのように災害時における市民活動について検討しているのか知りたい。

事務局：まず、コロナ禍における災害対策は感染対策などが大きな課題である。確かに本市はコロナ禍での災害をまだ経験していないところだが、他自治体で起こった災害での対応や国からの情報を受け、市としても準備を進めている。今度の地域総合防災訓練で、感染対策も施した避難所設営訓練を地域のかたにも経験していただける予定。また、災害発生時こそ市民活動団体と協働する場ではないかと想定している。行政・NPO・地縁団体等と連携をしていく必要があるので、関係性を深めていきたい。そのような内容もアンケートに反映できればよいと思う。

委員：11月から公益的な活動をする市民活動団体に対し、市民活動拠点施設の使用料が減免される「市民活動リスタート支援」が始

まり、地域交流センターや図書館交流プラザ・りぶらの会議室などの予約が一気に埋まっていったような印象を受ける。実際に自分も市民活動団体として使用している。このような市民活動団体に対してわかりやすい支援を受けられてありがたいと思っている。

事務局：利用率が低い額田センターもこの機会にぜひ使用していただきたい。

委員：先日、団体の活動で額田センターを訪れたところ、とても良い施設だった。今後も使用したいと思っている。

委員長：コロナ禍で岡崎市を含め全国的に市民活動が停滞する厳しい状態である。行政の支援が必要。委員の皆様にもご尽力賜りたい。

委員長：議題(3)についてはどうか。

委員：市民協働推進計画の成果指標の目標値となっているボランティアマッチング件数について、市民活動センター及び各地域交流センターでのボランティアマッチングの件数の合計が目標値として掲げられていると思うが、次期地域交流センター指定管理における業務水準書では、交流センターでの交流事業回数が現行より低くなるため、交流センターのイベントで関わるボランティア数も比例して減少していくのではないかと。また、内容が現状と異なるため、この成果指標の内容もボランティアマッチング件数ではなく、「支援の質」を重視する内容にしていく必要があるのではないかと。また、現状の集計方法だと、市民活動センター・各交流センターでの件数が主になっていると思うが、地縁団体や社会福祉協議会のボランティア件数も含めていくのはどうか。状況に合わせた集計方法の変更については検討しているのか。

事務局：社会福祉協議会のボランティアマッチング件数の把握は可能か。

委員：ボランティアマッチング件数の把握は可能だと思うが、コロナ

禍において活動自体が減少しており、十分な件数は見込めないと思う。

事務局：実績把握については、従来通りを想定しているが、把握先が増えるのはよいのではないかと考えている。現在掲げている目標値は昨年度第3期計画を作成するにあたり市民協働推進委員会の中で検討した結果である。今後社会情勢などに合わせて目標値等を変更していく場合は、再度委員会に諮ることになると思う。

計画における目標値はあくまで目標。数字上だけではなく、前提として事業の中身も充実させる必要がある。実際、交流センターで実施されたイベントがとても素晴らしいという意見もいただいている。

委員長：目標値は計画策定時、この委員会で設定した値だが、今後、社会情勢などに合わせて目標値を変更していく場合、現状値が目標値を検討する材料になっていくと思う。

また、第3期計画策定の段階では、まだ新型コロナウイルス感染症の影響がなく、状況が反映されていないので、数値については、新型コロナウイルス感染症の影響の状況を踏まえていくか検討していく必要がある。

委員：今年3月に岡崎市に引っ越してきた。市をもっと知るために、ボランティア、市民活動に参加したいと市に問い合わせたところ、対応が十分ではなかった。また、別の部署を案内されるなど、たらいまわしにされた印象を受けた。市民として、やる気をもって問い合わせたのにも関わらず、期待外れな対応をされて残念であった。自分のように活動をしたいと思っている市民は多くいると思う。また、岡崎市は海外から来たかたも多数住んでおり、日本での生活や習慣に困るかたも多く存在していると思う。委員会の資料である市民協働推進計画を見ると、活発に協働されているような印象であるが、その情報提供を行う窓口が複数に渡るためわかりづらい。市民が問合せなどをした際に、情報が1か所に集結していると市民としてとても活動がしやすいように思う。

事務局：市の対応については申し訳なかった。各地域交流センターについては、指定管理者で、組織的にスタッフの接遇を徹底させていただいている。市民活動団体や市民活動に関する情報については、市民活動センターにて提供させていただいている。ぜひご活用いただきたい。

委員長：庁内推進会議については、R2年度の状況を見ると開催ができていないようだが、今後実施できる見込みはあるか。

事務局：経緯について説明すると、この庁内推進会議は、市民協働推進委員会ができる前段階の庁内検討会議であり、市民協働をどのように進めていくか検討していた会議である。委員会設置後は、推進に関する課題、問題があった際に、庁内関係課と調整するような立ち位置の会議となっている。庁内推進会議のあり方を含めて検討している段階である。

委員長：計画の事業の方向性は「拡大・充実」となっているので、全庁的な取り組みに期待する。また、目標値1回はどのような考え方なのか。5年のうち1回か、毎年1回なのか。「拡大・充実」となっていることから、年1回程度は各課の推進状況の把握のためにも庁内推進会議を開催してもらいたい。

事務局：本会議は本市における市民協働推進初期の段階で設置された会議のため、第3期計画となり「発展期」と位置付けた現状にそぐわない状態になっている。会議自体の目的や関係課をどこまで含むかも合わせて見直していきたい。

委員長：計画の表現の問題だが、評価するための成果指標であるため、母数がわからないことには、委員としても評価がしづらい。「年〇回」といったように、どの期間で何回実施するのか明確にしていきたい。

事務局：資料4「成果指標」及び「主要事業の実施状況調査票」の表現についても検討していく。

委員：基本施策2 (3) 14「事業者による支援に関する情報収集と提

供」について、具体的にどのような情報提供か。また、事業内容に『ボランティアマッチング』とあるが、これまでどんなマッチングがあったのか。

事務局：昨年度までの実績となるが、新型コロナウイルス感染症の流行前に、市民活動センターが中心となり、地域の未来・志援センターと共に、セブンイレブン記念財団やトヨタ自動車など民間の助成制度などを紹介するセミナーなどを実施した事例がある。

委員：地元企業が関わっていくようなものとは違うのか？

事務局：第2期計画までは地元企業との関わりが薄かったが、第3期計画では、地域交流センターの指定管理においても事業者への働きかけ、アウトリーチを実施していくとの新しい提案を受けているので、地元企業についての情報提供も可能ではないかと考えている。

委員：指定管理者候補者として、次期指定管理業務については、これまで重点的に関わってきたテーマ型市民活動団体だけでなく、地縁型市民活動団体や事業者に対しても地域と協働していただけるよう関わっていきたいと思っている。また、市民活動メールマガジンについても従来のテーマ型市民活動団体以外にも登録者の幅を広げていきたいと思う。

委員：商工会議所では、事業者から協働の提案や寄付についての話を受けることもあるが、どこに繋げるか迷うことがある。この機会に行政、市民活動団体などと連携ができればいいと思う。

委員長：基本的には【資料4】の実施状況欄や実施予定内容欄を記載し、毎年進捗状況を確認していくという認識でよいか。

事務局：そのような認識でよい。

委員長：意見も出尽くしたようなので、事務局案のとおり執り進めることで議題についての議論は終了する。その他、事務局に質問は

あるか。

委員：初めて委員を務めるが、任期の2年間のスケジュールをわかる範囲で聞きたい。

事務局：年2回程度の委員会に参加していただきたい。今期の委員は主に計画の進捗状況の確認、他自治体へのアンケート調査内容の検討、実施後のアンケート結果報告を受け、協働をどのように進めていくか検討をしてもらいたいと思っている。また、委員としての業務ではないが公益活動事業費補助金の審査員も充てさせていただいている。今年度の審査会は5月に終了しているが、2月末ごろこの補助事業の成果報告会を予定しているので、こちらにご参加いただきたい。また、今年度は、第2回の市民協働推進委員会についても報告会后、同日に開催できればと思っているのでご承知おきいただきたい。

委員長：市民協働推進委員としては年2回程度、公益活動事業費補助金の審査員としても2回とのことで、立場は違うが、合計年3～4回程度、参加してもらおうということでよいか。

事務局：よい。

## 10 連絡事項

次回委員会は2月末ごろを予定している。なお、公益活動事業費補助金成果報告会も同日に開催する可能性があるのでご承知おきいただきたい。詳細は追って連絡する。

－ 会 議 終 了 －